

名鉄病院newsletter

平成19年3月号



撮影 予防接種センター 宮津 光伸

ごあいさつ 名鉄病院 副院長 長尾和義

医療連携を深めるため、当院の現状を知っていただく目的で発行が始まった名鉄病院 Newsletter も第3回目の発行となりました。

当院は昭和31年に現在の地で診療所として開設されてから本年度で50周年を迎えました。当初は名鉄の職域病院として開設されたため、名鉄健保組合の受診者が多数を占めていました。しかし、近年、その割合は徐々に減少し、昨年度、外来7%程、入院5%程となっています。このような状況ですので、今後も、西区と名鉄沿線の住民を中心とした地域医療を、診療所と他の病院の先生方と協力して進めていきたいと考えていますので宜しくお願いします。

2月21日、名鉄病院の創立50周年を記念して医療連携講演会を名鉄グランドホテルで行いました。その際、先生方にも多数参加していただきまして盛大に行うことができ、誠にありがとうございました。

- 名鉄病院循環器科のご紹介
- 名鉄病院 50 周年記念講演開催
- 名鉄病院泌尿器科のご紹介
- 日本医療機能評価認定のお知らせ
- 当院の駐車場について / Season Report / 連携室より一言

外来医師担当表を添付してあります。ご活用ください。

名鉄病院循環器科のご紹介



今回のニュースレターは循環器科よりお送りします。

近年循環器疾患の発症年齢は若くなる傾向にあります。動脈硬化の危険因子としてのメタボリック症候群を始めとして、生活環境を変え、疾患発症のリスクを下げようとの積極的介入が注目を浴びつつあります。冠動脈疾患は依然増加の中にあり、最近では糖尿病に伴う動脈硬化疾患、特に腎不全の急速な増加の中に我々はいまいます。名鉄病院の循環器科は腎透析の管理も行っており透析導入にいたる症例も増えています。

現在、当院循環器科には6人のスタッフと、副院長で総合内科部長の長尾先生も循環器が専門ですので計7人と、今年からは後期研修で循環器科のレジデントとなる三好亜矢先生が加わりの8人の体制となります。当科の特徴は、このスタッフのうち6人が20年以上の臨床経験の豊富なスタッフである点です。各人が各々責任を持ち患者様の治療にあたっています。

毎週月曜日には循環器病棟全員の患者様の症例検討を全スタッフで行い、診断や治療方針の確認、検討を行います。専門性や経験の多いスタッフの間で行うため、若い先生やレジデントの先生たちには厳しいカンファランスの場となっています。我々はエビデンスに止まらず、病院間での症例検討を重要と考えており約20年前から金曜ハートカンファランスという循環器専門のカンファランスを行っています。第一日赤、第二日赤、保健衛生大学病院、名鉄病院の4施設で症例を持ち寄り、活発なディスカッションを年に4回行っています。各施設での診断や治療レベルの認識、各医師の診療レベルの確認やばらつきをなくす努力は、総合病院での医療の責任と自覚しながら診療にあたっております。赤星、福井、徳田、加藤を中心に当院の冠動脈インターベンションも630例をこえ、成功率は99%を保ち、死亡率は0%を維持しています。特に薬剤溶出性ステントを用いるようになってからは再狭窄率は0%でバルーン単独形成の時代の成績からは

隔世の感があります。最近では年間100例以上のインターベンションを高いレベルの安全性をたもちながら行っております。最新の考え方をもとに重症心不全の管理も多数行っており重症心不全の予後も最近では改善しています。ペースメーカー植え込み術や不整脈治療のアブレーションは杉浦、長尾を中心にこなしていますが、特に不整脈アブレーションは必要に応じて名大より因田恭也講師にもきていただき定期的におこなっています。

循環器の外来診療は月曜日は3診、火曜から金曜までは毎日2診を開いております。最近では地域医療連携室の機能が強化され、担当日や情報など気軽にお問い合わせいただき、ご紹介例は直接外来への予約が電話やファックスで可能です。緊急の患者様は常に24時間、専門医に連絡が可能ですのでご紹介いただければ対応いたします。

2ヶ月に1回土曜日の午後に医師会の皆様と済生会循環器、名鉄循環器で“循環器症例カンファランス”を開催しております。日常診療でお困りの症例や疑問の内容などをお気軽にお持ちよりください。共に最善策の検討ができれば有意義な検討会になるものと思います。また日常診療のお役に立つような症例の供覧に努めてまいります。

各種心筋シンチもご依頼いただければ読影を行いご報告が可能です。

新しい試みとして、最近増えつつある閉塞性動脈硬化症に対し、末梢の動脈形成術を当院の整形外科スタッフと共にフットケアの指導を含め、積極的に取り組む予定であります。従来は下肢切断に至る経過の症例に血流改善の形成術と部分切除という新しい発想のアプローチを組み合わせ生活上のクオリティを維持しようとするアプローチです。我々はご紹介いただくにふさわしい質の医療を常に意識し努力してまいります。今後ますます積極的な病診連携にご参加いただければ幸いです。

名鉄病院50周年記念講演開催

2月21日(水)、名鉄病院創立50周年記念の医療連携講演会が九州大学・大学院から尾形裕也教授をお招きし、名鉄グランドホテルで開催されました。当日は院内から医師、看護師、検査科など55名の職員が参加、また院外からも、いつも当病院にご紹介くださる先生方や訪問看護ステーションの方々など41名にご参加をいただきました。今回の講演会のテーマは「医療制度改革と医療機関経営」というタイムリーなお話で、一般的な研究会に食傷気味な？先生もご満足いただいた様です。

特別講演の後の情報交換会では、壇上で職員の自己紹介もあり、宴を囲んで大いに盛り上がりました。これによって益々、お互いの肩の力が抜けた様な感じがします。これからは様々な機会を利用して地域医療連携を充実させようと職員一同張り切っています。今後よろしく願いいたします。

(地域医療連携室長 細井 延行)



名鉄病院泌尿器科のご紹介

各先生方には、日頃から多くの患者様をご紹介いただき感謝しております。当ページでは、当科の基本方針と泌尿器科の主な疾患について現在行っている診療内容をご説明させていただきます。

当科は、『手術的に根治できる疾患は手術的に出来る限り短期間で根治する』という基本方針で診療を行っています。たとえば、現在では前立腺肥大症による排尿障害に対しては α 1ブロッカーであるハルナール、フリバス（アビシヨット）やユリーフなどの優れた治療薬が存在します。しかしこれらはけして前立腺肥大症を根治するものではなく、多くの患者様は長期に渡って内服を継続する必要があります。当科ではこのような患者様に積極的に手術治療：TUR-P（経尿道的前立腺切除術）をお勧めして通院を中止できるようにしています。また、昨年10月からはミニマム創内視鏡下泌尿器手術を開始し低侵襲での手術治療にも心がけています。そして入院期間の短縮と合理的な医療を進めるためにクリティカルパスも積極的に採用し、現在、抗癌剤治療も含む34個のクリティカルパスを運用（入院患者の95%以上クリティカルパスで運用）しています。

ESWL（体外衝撃波結石破碎術）

今や腎尿管結石症治療の1st choiceとなっています。通常、当科では径5mm以上の結石を治療対象としていますが、強い疼痛のある症例や疼痛を繰り返す症例には（5mm未満であっても）出来るだけ早期に治療するよう心がけています。

碎石機は平成12年9月に、シーメンスのリゾスター（電磁変換方式）から、より治療時疼痛が少なく碎石力の強いエダップ社のブラックティス（スパークギャップ方式）に変更してから碎石成績が向上しました。ほとんどの症例がESWL単独治療で完全碎石されるようになり、碎石不能症例に対して行ったTUL（経尿道的尿管碎石術）が、平成12年まではESWL年間120～150症例の内約10症例前後あったのに対して、平成13、14、15、16、17、18年は、ESWL年間200～270症例の内それぞれ7、2、2、0、0、0例と減少しています。また平成12以降はPNL（経皮的腎碎石術）が必要となった症例もありません。

碎石装置の安全基準で腎・上中部尿管結石に対しては1回3000発まで、下部尿管結石に対しては1回3500発までと1回での治療ショット数の制限があるため、大きな結石や硬い結石の場合、複数回の治療が必要のこともあります。その場合は出来る限り連日治療を行い短期間に治療を完了するよう心がけています。当科での平均治療完了回数は1.39回です。原則として1回の治療は2泊3日の入院で行っています。

前立腺肥大症

現在Gold standardであるTUR-P（経尿道的前立腺切除術）を中心に行っています。抗凝固薬内服中で休薬リスクの高い患者様に対しては、抗凝固薬継

続したままでの治療が可能なエダップ社プロスタトロンによる前立腺高温度治療も施行できます。

当科での TUR-P 症例数は平成 10～18 年の9年間で 1000 例施行しており、これは名古屋大学関連病院の中で最も多い症例数です。100 g を超す肥大症に対しても輸血無く安全に施行しています。一方、10 g 未満の小さな肥大症でも排尿障害が強い症例（その多くが膀胱頸部硬化症を併発している）も数少なくなく存在しますが、このような症例に対しても TUR-P に経尿道的膀胱頸部切開を併用することで良い成績を得ています。入院日数は9日間です。

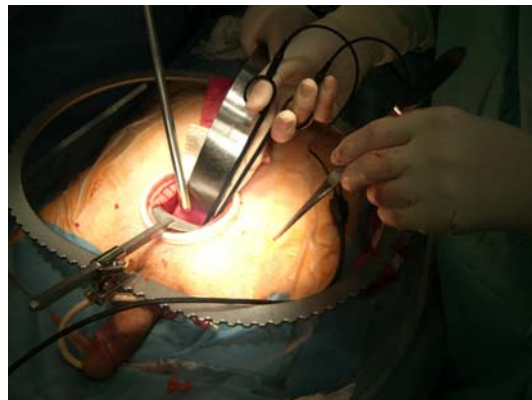
腹圧性尿失禁

女性腹圧性尿失禁に対しては、TVT（Tension Free Vaginal Tape）手術を積極的に行っています。TVT 手術は Sling 法の一法で、以前広く行われていた Stamey 手術（Transvaginal needle suspension）に比べて術後再発率が少なく安定した成績が得られる術式です。Stamey 手術では術後成績が悪かった膀胱頸部機能不全の症例にも安定した成績が得られます。当科で施行した全例で尿失禁が消失しております。入院日数は5日間です。

ミニマム創内視鏡下泌尿器手術

当手術は Portless Endoscopic Surgery（PLES）とも呼び、手が入らない又は摘出臓器がぎりぎり取り出せるサイズの1つの小切開創から気腹せずに腹腔鏡を併用して行う手術です。創が小さいため術後疼痛が少ない上、腹腔内に手を挿入しないで行うため術後創部感染が低率です。また低侵襲手術の腹腔鏡下手術に比べても、手術時間が短く、気腹による循環動態への悪影響もないという利点があります。ミニマム創内視鏡下泌尿器手術は従来の開腹手術に比べ低侵襲で入院日数も短縮可能な新しい手術方法です。この手術法は、腎・副腎・前立腺・膀胱の腫瘍性疾患に対し適応となりますが、当科では腎細胞癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、膀胱癌に採用しています。現在、腎摘出術では約7～8 cm、前立腺全摘出術では約6～7 cm、膀胱全摘出術では約7 cmの切開創で行っていますが、将来的にはさらに小切開創での手術を目指しています。本年4月1日から

はオリンパスFlexタイプ径5.4mm最新型腹腔鏡が稼動するため、比較的短期間に手術創と手術時間の短縮がはかれるものと考えております。現在、当手術施行患者の術後経過は良好です。



▲ミニマム創内視鏡下泌尿器手術：前立腺癌に対する前立腺全摘出術



▲ミニマム創内視鏡下泌尿器手術：前立腺癌に対して6cmの切開創から行った前立腺全摘出術手術創（術中開創のため、一時的に約1cm手術創が長くなるが、抜糸時には6cmに戻り1～2ヶ月後にはさらに1cm短縮する）

日本医療機能評価認定のお知らせ

本年1月22日付で、日本医療機能評価機構より Ver.4 の認定を受けました。

これもひとえに皆様の絶大なるご支援のおかげであると深く感謝申し上げます。受審準備中も絶えず最新の情報に注意し、対応してまいりましたが、今後も地域医療機関の方々、患者や地域住民の方々からの安全・安心の信頼がますます深まるようにこの取り組みを更に進めてまいりたいと存じます。

(名鉄病院 院長 二村良博)



当院の駐車場について

当院3号館北側にごさいます患者さま用の駐車場は、診療にいらっしゃる患者さまのご利用で混雑しご迷惑をおかけしておりましたが、現在は予約診療の定着に伴って余裕がございます。

season report

イベントかえるクラブでは、昨年12月21日に毎年恒例の『クリスマス会』を開催いたしました。クリスマスソングの合唱やハンドベル演奏で、入院患者さまと楽しいひとときを過ごしました。サンタクロースからクリスマスプレゼントも配られました。



連携室より一言

「日本3大***」という表現を目にすることがあります。例えば「日本3大稲荷」。これ、3つとも挙げられますか？

京都には伏見稲荷、愛知には豊川稲荷があります。誰に訊ねても大抵この2つは出てきます。ところが、残る1つについての答はバラバラになることが多い。東北のひとは竹駒稲荷だと言います。北関東のひとは笠間稲荷、九州のひとは祐徳稲荷だと言います。岐阜ではお千代保稲荷を挙げるひともいます。きっと、全国にはまだまだ知られざる「日本3大稲荷の一つ」があるのでしょうか。

先日、インターネットの『検索』が生き方そのものを変えるという特集番組を視ました。ただし、検索で得られた情報が正しいかはわからない。世の中に溢れる情報に頼り過ぎることが危険なのは“納豆騒動”で明らかになりました。情報の『取捨選択のセンス』が問われる時代。便利になりすぎるのも考えものだなあ、と思ったりします。(Y)

名鉄病院 地域医療連携室

〒451-8511 名古屋市西区栄生2-26-11

TEL.052-551-6121(代) 052-586-5755(連携室) FAX.052-586-5756

URL : <http://www.meitetsu-hospital.jp/>